

日光市環境基本計画重点プロジェクト

平成26年度実施状況報告書

日 光 市



目 次

1	はじめに	1
2	平成26年度プロジェクト別実施状況	1
(1)	光の環プロジェクト	2
(2)	水の環プロジェクト	7
(3)	資源の環プロジェクト	11
(4)	環境にっこの輪プロジェクト	16
3	今後の取り組み	20

1 はじめに

日光市は、日光国立公園に代表される優れた自然環境・自然景観や多彩な温泉資源、貴重な歴史文化遺産など、世界的に誇れる環境資源を有しています。

この環境を守り、未来に引き継いでいくために、事業者や滞在者を含む生活者一人ひとりが、環境負荷の少ない暮らし方に取り組むとともに、資源・エネルギーの有効活用を進める必要があります。こうした環境の保全と創造に関する施策を推進するため、市では平成21年度に「日光市環境基本計画」を策定し、また、平成22年度には「日光市環境基本条例」を制定しました。

条例において、毎年度、施策の実施状況を明らかにすると規定しており、これに基づき、日光市環境基本計画のなかで特に「重点プロジェクト」として掲げている事項について、本書により実施状況を報告するものです。

2 平成26年度プロジェクト別実施状況

重点プロジェクトは4分野から構成されます。平成22年度から平成26年度までのファーストステップ期間（第1段階）に推進する項目は全部で44項目あり、平成26年度の実施状況は、「完了」が1項目、「実施」が40項目、「未着手」が2項目となっています。内訳は下表のとおりです。

※ ファーストステップ：平成22年度～平成26年度
セカンドステップ：平成27年度～平成31年度

	平成26年度 ファーストステップ実施状況			
	完了	実施	検討中	未着手
光の環プロジェクト	0	11	0	0
水の環プロジェクト	0	10	0	0
資源の環プロジェクト	0	11	0	0
環境にっこの輪プロジェクト	1	9	0	2
計	1	41	0	2

(1) 光の環プロジェクト 地球温暖化防止への貢献 ～低炭素社会づくりに向けて～

プロジェクトの目標

市民・市民団体・事業者・滞在者それぞれが、省資源・省エネルギーに取り組み、また、再生可能エネルギーの利用を促進することで、温室効果ガス排出量を削減し地球温暖化防止へ貢献する。

○指標

地球にやさしい行動推進(エコライフ・省資源)

1) 地球温暖化防止運動への参加

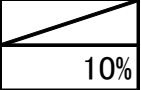
指標名	現状値*	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.”とちぎ発”ストップ温暖化アクション(栃木県事業)への参加者	9,901	人	7,443	23年度から県事業の内容と集計方法が変更され、参加者数を指標として比較することが適当でなくなったため、比較を見合わせます。				20,000
2.ライトダウンキャンペーン参加団体	19	団体	26	9	6	8	10	250

2) 地球温暖化防止に関する環境学習の推進

指標名	現状値*	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.地球温暖化防止学習会の開催	6	回	1	1	1	1	0	10
	293	人	200	24	30	113	0	500

温室効果ガス排出量の削減

3) 日光市役所環境配慮率先行動計画の推進

指標名	現状値*	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.市施設の温室効果ガス排出削減	(H19年度) 29,832 注1)	t	27,869	24,971	26,453	26,333	25,638	25,357 (15%削減)
2.低公害車(庁用車)保有台数	注2) 7	台	19	21	25	30	35	
	1.4	%	4.0	4.5	5.4	6.5	7.5	

注1) 平成25年度日光市役所環境配慮率先行動計画点検結果報告書の数値見直しに合わせ、平成19年度から平成24年度の値を修正しています。これに伴い最終31年度の15%削減の目標トン数も修正しています。

注2) 総合計画の成果指標のカウント方法に合わせ、特殊車両として水素燃料自動車及び電気自動車を含んだ値に修正しています。

4) 低炭素社会への取り組み

指標名	現状値*	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.市全域からの温室効果ガス排出削減	(H18年度) 676,853	t	655,908 3.1%削減	739,379 9.2%増	755,392 11.6%増	720,123 6.4%増		609,168 (10%削減)

国のデータ公開時期の都合により、現時点で1年度前までしか算定できません。

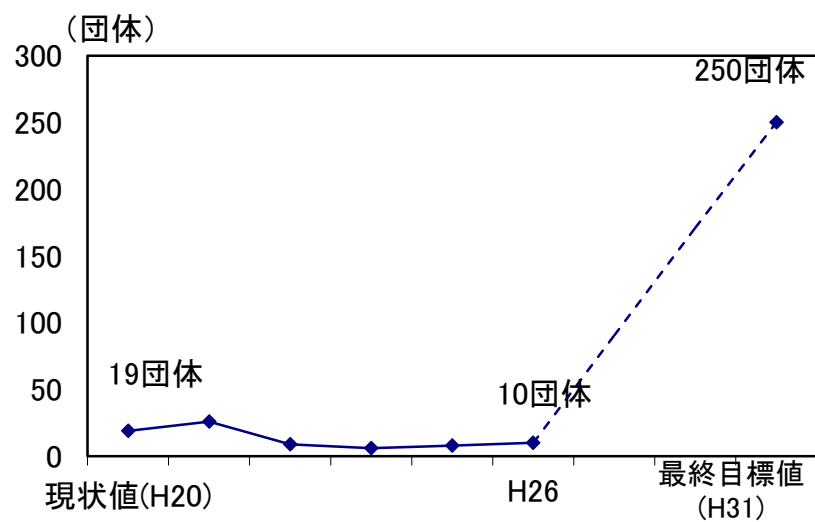
再生可能エネルギー利用の推進

5) 太陽光発電システムの導入促進

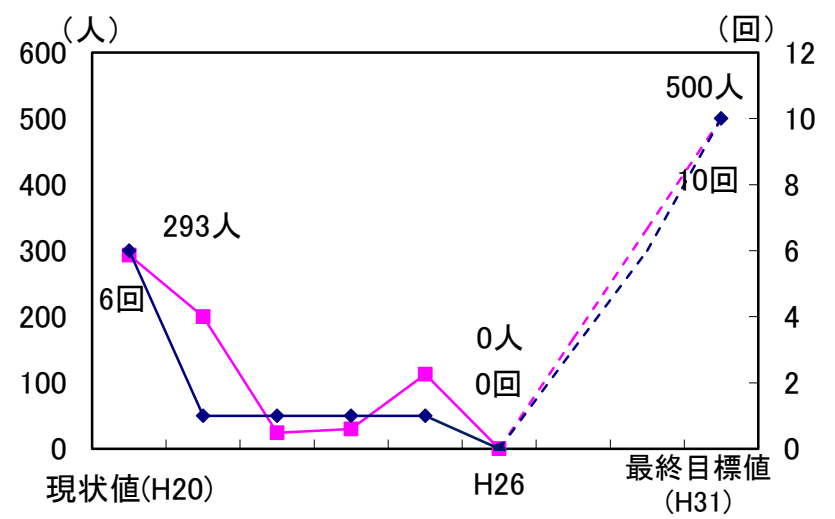
指標名	現状値*	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.住宅用太陽光発電システム設置補助数(累計)	111	件	303	462	679	872	1,030	1,255
2.市施設への太陽光発電システムの導入(累計)	1	施設	2	4	4	5	6	12
	100	kw	104	254	254	274	284	300

現状値*) 特に年度記載がない場合は、平成20年度値を採用しています。以降、いずれのプロジェクトも同様です。

【指標名】1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体

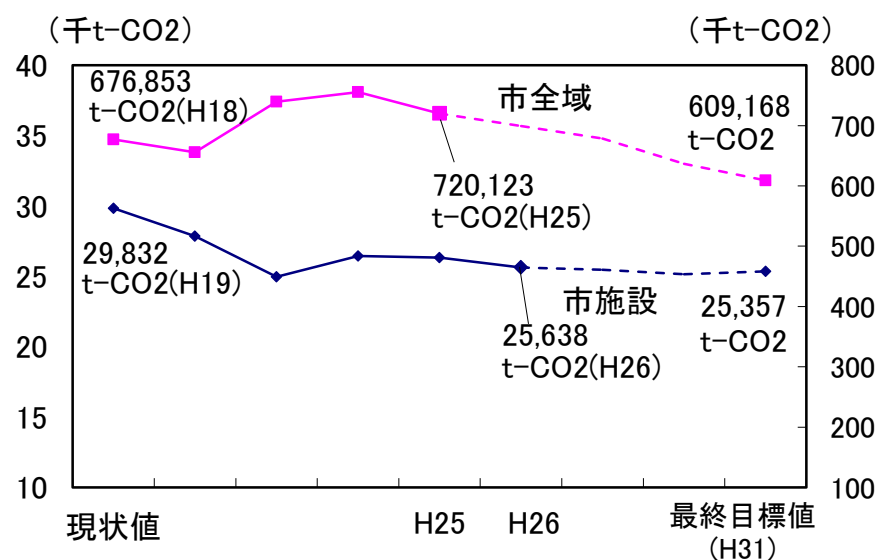


【指標名】2-1. 地球温暖化防止学習会の開催

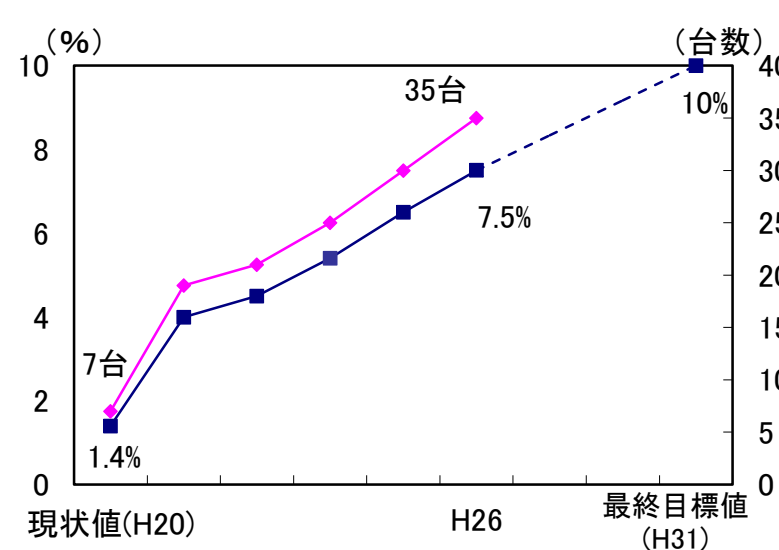


【指標】3-1. 市施設の温室効果ガス排出削減

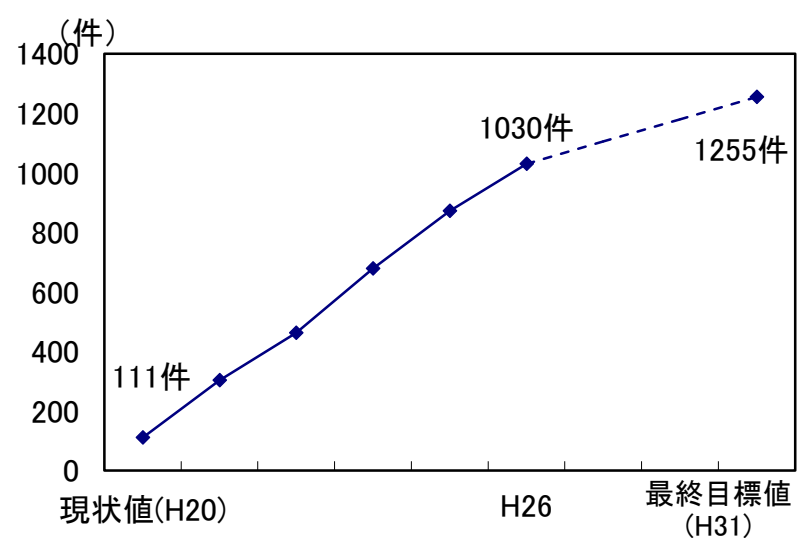
4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減



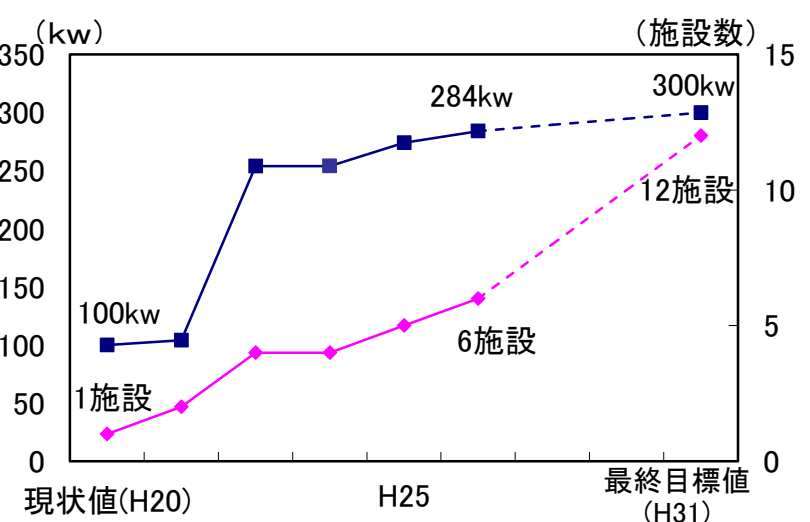
【指標名】3-2. 低公害車（庁用車）保有台数



【指標名】5-1. 住宅用太陽光発電システム設置補助数（累計）



【指標名】5-2. 市施設への太陽光発電システムの導入（累計）



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

概ね順調に成果が上がっており、特に「3-2. 低公害車（庁用車）保有台数」「5-1.住宅用太陽光発電システム設置補助数」の指標が良好となっています。ただし、次の3指標については低い数値となっています。

- ・「1-2. ライトダウンキャンペーン参加団体」

事業所等における日頃の節電意識は高いと考えられますが、ライトダウンキャンペーンへの参加団体数は伸びなやんでいます。登録・参加について、商工部門と連

携して、事業所等に積極的な呼びかけを行っていきます。

・「2-1. 地球温暖化防止学習会の開催」

出前講座の要望が少ない状況にあります。今後は、今市工業高校との学官連携に基づく出前講座を実施するなど、講座メニューの充実を図ります。

・「4-1. 市全域からの温室効果ガス排出削減」

景気の動向や気象により、排出量が大きく左右されます。国の温室効果ガス対策に注目しながら、市・市民・事業者等それぞれが取り組めることを検討します。

○プロジェクト項目別実施状況
〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成 26 年度実施内容				
1101	“とちぎ発” ストップ温暖化アクションの普及（きっかけづくり）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		ストップ温暖化アクションの実施主体は栃木県ですが、市が「環境にっこう」で節電行動への協力を訴えるなかで、併せて本事業への参加を呼びかけました。 市独自の温暖化対策事業としては、緑のカーテン普及啓発のため、ゴーヤの種を市民に配布しました。 また、市役所で、7 月～9 月にかけて「庁舎内節電対策」に取り組みました。				
1102	エコアイデアの整理・情報提供	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		「夏の“うちエコ”コンテスト」を実施し、33 世帯 99 人の参加がありました。参加者から寄せられた夏の節電アイデアを集約して「環境にっこう」に掲載しました。				
1103	ライトダウンキャンペーンの普及（きっかけづくり）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		環境省が実施するライトダウンキャンペーンの呼びかけ団体に登録し、ライトダウンへの参加を呼びかける記事を市のホームページに掲載しました。また、市役所内で庁内周知を図り、職員の積極的な参加を促しました。				
1104	太陽光発電（住宅用太陽光発電設置補助、公共施設への太陽光発電施設設置）の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 26 年度の住宅用太陽光発電の設置補助実績は、158 件（18,232 千円）で、前年度より減少しましたが、全体的には順調に増加しています。 また、市の施設における設置状況は、次のとおりです。 【瀬尾浄水場】H13～, 100kWh 【リサイクルセンター】H22～, 4kWh 【湯西川水処理センター】H23～, 50kWh 【かたくりの湯】H23～, 100kWh 【足尾総合支所】H25～, 20kWh 【日光消防署】H26～, 10kWh なお、平成 23 年度に策定した「日光市庁舎整備指針」の中で、今後整備する総合支所等庁舎には、太陽光発電設備を設置することを定めています。これに従い、平成 27 年度に新設する藤原消防署には、太陽光発電設備 15kWh を設置します。				

No	項目	進捗及び平成 26 年度実施内容				
1105	その他再生可能エネルギー利用の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中	実施 ●			
		東日本大震災に伴う原発事故以降、再生可能エネルギーへの関心が高まり、全国的に再生可能エネルギーの普及が進んでいます。市においても平成 2 6 年 1 1 月に「日光市再生可能エネルギー推進基本方針」を策定し、特に太陽光、小水力、バイオマス、温泉熱利用の普及啓発を図ることとしています。 また、平成 2 6 年 1 1 月には、栃木県立今市工業高等学校と相互協力のもと再生可能エネルギーの普及促進を図ることを目的に、学官連携に係る協定書を締結しました。				
1106	エコドライブの普及（きっかけづくり）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中 ●				実施
		平成 2 6 年 1 0 月に市民を対象としたエコドライブ講習会を開催し、2 0 名が参加しました。参加者の評価を得ていることから、今後も継続していきます。				
1107	住宅用高効率給湯器設置費補助など省エネルギー機器補助制度の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手	実施 ●			
		市民の省エネルギー意識が非常に高まっていますが、現在の市民ニーズの中心は、住宅用太陽光発電設備であり、これに重点をおいた施策を進めています。 厳しい財政状況を鑑み、国、県等のエネルギー施策を踏まえ、対応を検討します。				
1108	とちぎの元気な森づくり県民税の活用	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 2 6 年度中に里山林の整備を 4 4．0ha、平成 2 5 年度までの整備箇所の管理を 1 6 5．8ha 実施しました。また、森林への理解促進のため、間伐材等を活用した木工教室や、4 校が森林環境学習を実施しました。平成 2 7 年度以降も、同様の事業を展開していく予定です。 【各学校の事業】 ・ 学校林環境整備（樹木名板設置、森林環境講話） ・ 植栽環境整備（植樹活動） ・ 間伐材を使用したマイ箸、コースターの作成 ・ 木製ベンチ作成 ・ 木材チップによる遊歩道の修繕				
1109	森林の整備・森林資源の利活用の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 2 6 年度は、日光市森林整備計画に基づく除間伐 6 2．4 8ha に対する支援を実施しました。また、間伐材の利活用については、公共施設で使用する木製ベンチの製作などを実施しました。平成 2 7 年度以降も、同様の事業の展開及び、森林資源の民間利活用についての啓発等を行なっていく予定です。				

No	項目	進捗及び平成 26 年度実施内容				
1110	日光市職員エコアクション運動の実践	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		県が呼びかける「エコ通勤統一行動（年 2 回）」を市職員に周知し、平成 2 6 年度は 6 月 1 8 日及び 1 0 月 1 5 日に実施しました。エコ通勤実施率は、それぞれ通常時 7 %のところ、行動日はどちらも 2 2 %という結果となりました。行動日の取組意識は比較的高く、今後も周知を徹底して、更なる実施率の向上と、通常時の底上げを目指します。				
1111	日光市役所環境配慮率先行動計画の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 2 5 年度の C O ₂ 排出量は 2 5, 6 3 8 t-C O ₂ であり、基準年度である平成 1 9 年度の排出量 2 9, 8 3 2 t-C O ₂ に比べ、1 4. 1 %の削減となっています。節電の定着・低公害車の普及などによる削減効果が表れています。 環境基本計画では平成 3 1 年度に 1 5 %削減という長期目標を掲げており、これに向けて更なる削減を目指します。				

〔セカンドステップ〕

No	項目	進捗及び平成 26 年度実施内容				
1203	低公害車（エコカー）の普及・拡大	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中	実施 ●			
		平成 2 6 年度は、住宅用の自動車用充電コンセント工事補助を実施し、民間主体での充電インフラの普及・拡大を図りました。 このほか、エコカー普及のため、市が率先して庁用車に E V を導入しています。				
1205	市役所の温室効果ガス排出削減	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 2 2 年度から実施している「日光市役所環境配慮率先行動計画」に基づき、市役所からの温室効果ガス排出を削減しています（詳しくは前出「日光市役所環境配慮率先行動計画の推進」参照）。				

(2) 水の環プロジェクト 水環境の保全と活用 ～水の循環を活かしたまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

良好な水環境を保全しながら、保全活動を通じての交流を活発化するとともに、水環境の情報発信を図るなど、豊かな水資源を有効に活用する。

○指標

奥日光の清流保全

1) 奥日光環境保全事業の推進、奥日光清流清湖保全協議会活動への支援

指標名		現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.コカナダモの除去等による水質浄化対策(機械刈取り)		3	日	5	4	注1) 5	5	4	拡大検討
2.奥日光第2期計画目標	1.湯ノ湖	2.4	COD	2.2	2.3	2.4	2.3		2.0
		0.41	窒素量	0.38	0.33	0.39	0.24		0.40
		0.022	有機リン	0.013	0.014	0.017	0.012		0.020
	湯川	2.7	透明度m	3.8	2.9	2.7	4.0		3.6
		1.2	BOD	0.9	0.8	0.9	0.6		1.0
	2.中禅寺湖	1.9	COD	1.2	1.3	1.6	1.6		1.6
		0.007	有機リン	0.005	0.004	0.004	0.004		0.005
		8.0	透明度m	9.3	8.0	8.6	10.9		10.0

BOD:微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素
COD:薬品を使って測定する消費酸素量
注1)機械刈取り以外の日が計上されていたため修正しています。

県の公開時期の都合により、
現時点では公表できません。

良好な水環境の保全

2) 公共水域の水質の環境保全

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.公共水域の水質の環境基準達成状況	達成		維持	維持	維持	維持	維持	達成・維持

3) 生活排水対策の推進

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.生活排水普及率	74.4	%	76.9	78	79	80	81	77
2.公共下水道水洗化率	87.8	%	89.6	91	92	93	93	93
3.合併浄化槽の設置基数	2,729	基	3,017	3,168	3,305	3,458	3,583	4,340

水の交流づくり(水を守る活動等流域の交流づくり)

4) 水を守るボランティア活動の推進

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.湧水ボランティア数	26	人	31	40	41	39	37	50
2.水環境保全活動実施回数	10	回	18	13	16	14	14	30

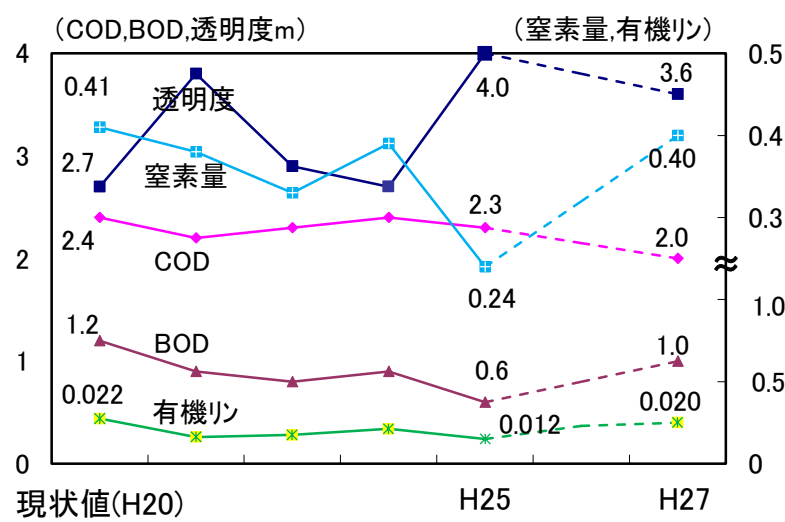
豊かな水資源の活用

5) 豊かな水資源の活用

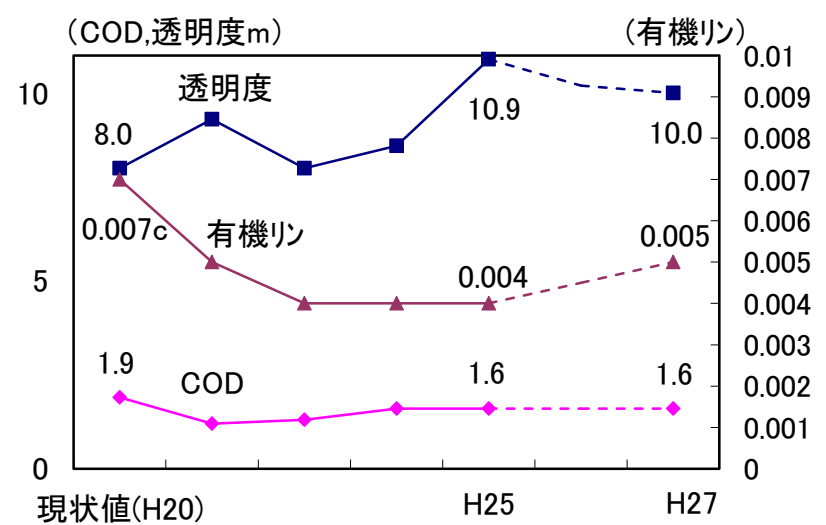
指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.おいしい水(水道水)		%	74.0	86	87	96	100	全水道で 基準達成
2.アクアスポットの整備	29	か所	29	29	29	29	30	39
3.日光の水百選(水資源再発見)				募集中	選定 (114風景)			

※については、平成 27 年度を目安とした目標値です。

【指標名】1-2-1. 奥日光第2期計画目標（湯ノ湖、湯川）

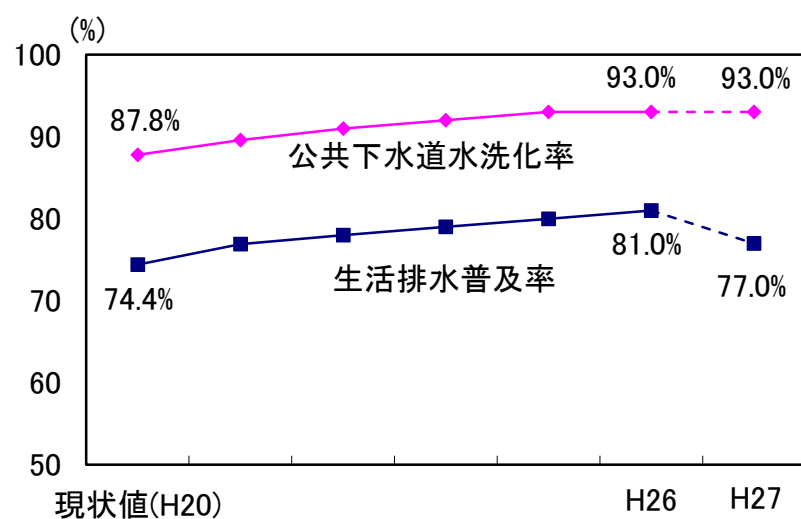


【指標名】1-2-2. 奥日光第2期計画目標（中禅寺湖）

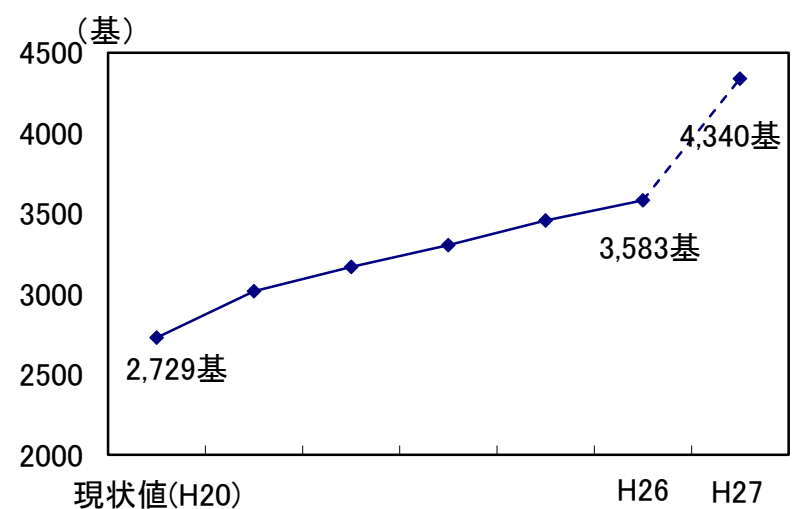


BOD：微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素量、COD：薬品を使って測定する消費酸素量

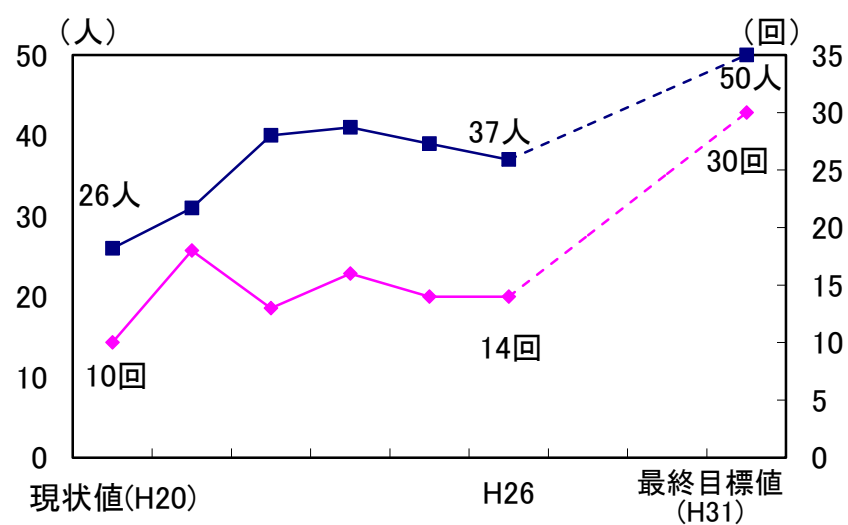
【指標名】3-1. 生活排水普及率
3-2. 公共下水道水洗化率



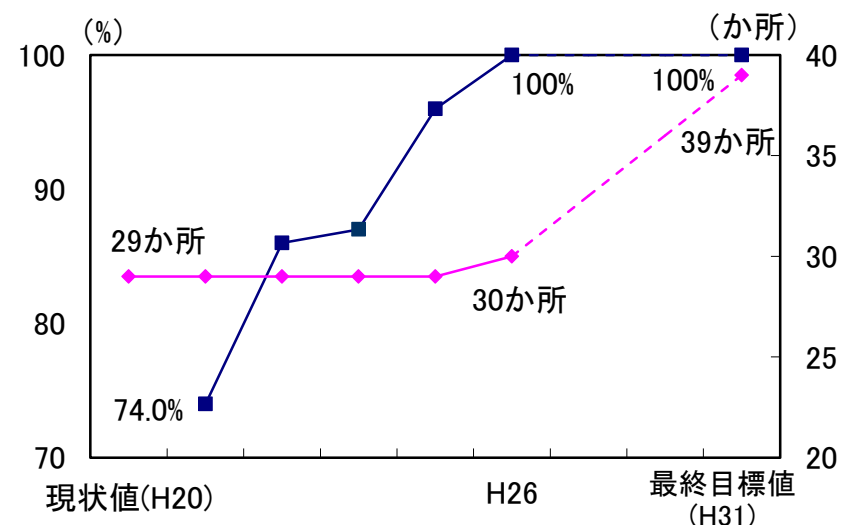
【指標名】3-3. 合併浄化槽の設置基数



【指標名】4-1. 湧水ボランティア数(人)
4-2. 水環境保全活動実施回数(回)



【指標名】5-1. おいしい水（水道水）(%)
5-2. アクアスポットの整備（箇所）



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

奥日光の清流保全や生活排水対策の指標はおおむね良好です。「3-1. 生活排水普及率」「3-2. 公共下水道水洗化率」は、最終目標値を達成しています。

○プロジェクト項目別実施状況
〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成 26 年度実施内容				
2101	奥日光清流清湖保全協議会・湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会活動への支援	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		奥日光清流清湖保全協議会の運営に参画し財政的支援を行うとともに、同協議会の事業である「湯ノ湖水草コカナダモ人力刈取及び湖畔清掃」「水環境学習会（中禅寺湖湖上学習会）」「奥日光環境学習推進事業（奥日光水環境保全セミナー）」、「奥日光清流清湖フォトコンテスト」等に対して支援しました。 湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会及び奥日光水の会についても、それぞれの団体が実施した湖沼水質保全に係る啓発事業や水質調査、清掃活動等に対して支援しました。				
2102	コカナダモの機械刈取りの推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		県と市の共同事業である 5 日間のコカナダモ機械刈取りに加えて、市単独事業として、コカナダモの流下防止対策を 4 月から 3 月まで行いました。なお、春の人力刈取は、コカナダモの生育不良により中止しています。				
2103	湯ノ湖水質保全対策の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		県・関係機関と連携し、地元を交え水環境保全事業に取り組んでいる中で、水質の変化と原因究明に努めるとともに随時協議し対応をしているところです。				
2104	事業者排水対策の推進（排水調査・環境保全協定等）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		市と環境保全協定を締結している工場や事業場から公共用水域に排出される水を定期的に分析し、公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図ることにより、市民の健康を保護するとともに、生活環境の保全を図っています。				
2105	生活排水対策の推進（下水道整備・水洗化の促進・合併処理浄化槽の整備）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		下水道管渠施設整備を推進することにより、供用開始区域の拡大を図るとともに、供用開始済区域内における下水道未接続世帯への戸別訪問による啓発活動を実施しています。 合併処理浄化槽設置の促進については、下水道事業計画区域外における設置費補助事業を引き続き実施するほか、補助制度の周知、水環境保全のための合併処理浄化槽への転換、維持管理の重要性の啓発を市広報への掲載、浄化槽工事完了検査時の設置者へのパンフレット配布及び説明により実施しました。 また、下水道と浄化槽による生活排水処理人口の増加を図るため、平成 24 年度より開始した単独処理浄化槽撤去費補助制度を引き続き実施しました。				

No	項目	進捗及び平成 26 年度実施内容				
2106	多面的機能支払交付金事業の推進 （平成 2 6 年度より「農地・水・保 全管理事業の推進」から事業名称 を変更）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		当事業は、農地・農業用水路等地域資源の基礎的な保全管理活動に対する支援（農地維持支払）、地域資源の質的向上を図る共同活動に対する支援（資源向上支払（共同））、老朽化が進む農地周りの施設の長寿命化のための活動に対する支援（資源向上支払（施設の長寿命化））とで構成されています。平成 2 6 年度は 4 0 団体が参加し、農地維持支払 3 5 団体、資源向上支払（共同） 3 0 団体、資源向上支払（施設の長寿命化） 2 7 団体が実施しました。				
2107	湧水ボランティアによる水環境調査	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		湧水ボランティアの会員数は年々増えており、平成 2 6 年度は 3 7 人の方が調査を実施しました。調査回数は年 4 回で、湧水の状況や簡易な水質検査キットによる水質調査も併せて実施しています。				
2108	日光の水百選の選定（再発見）	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		検討中	実施 ●			
		市内の全 1 1 4 風景を選定した「日光水のある風景百選」ブックレット（8 0 ページ・オールカラー刷）を公共施設や観光案内施設等で無料配布しました。 今後は、百選の環境を保全するとともに、環境をテーマとしたエコツーリズム等への利活用を図ります。				
2109	『アクアスポット』、日光の水百選の普及啓発	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 2 4 年度に選定した「日光水のある風景百選」をもとに観光パンフレット「日光、水のある旅」を作成しました。同時に専用ホームページを開設し、水を新たな観光資源として周知を図っています。				
2110	水道水の水質検査の公表、水道水の おいしい水基準の達成	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				
		平成 2 0 年度より水質検査の公表を開始し、平成 2 2 年度からは水質検査計画及び水質検査結果を市ホームページ等で公表しています。 水質検査を実施している 5 2 か所の給水栓はいずれも水質基準に適合しており、おいしい水の基準にも適合しております。				

(3) 資源の循環プロジェクト ごみ減量の推進 ～3Rによる資源が循環するまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

環境美化意識を高めて清潔な環境を維持するとともに、ごみの減量化と再生利用を進め、ごみゼロを目指す資源循環型社会をつくる。

○指標

3Rの推進(行政の取り組み)

1)ごみの減量化

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.1人1日当たりのごみの排出量	1,177	g/人/日	1,197	1,180	1,211	1,194	1,192	1,060
2.年間ごみ排出量	39,908	t/年	40,115	39,041	39,741	38,617	38,050	32,422
3.生ごみ処理機器設置補助数	104	件(累計)	153	172	187	205	222	650

2)リサイクルの推進

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.クリーンセンター等における再生利用率	14.0	%	16.0	17.6	13.6	14.9	18.1	24.0
2.クリーンセンター等における最終処分率	13.1	%	5.4	4.6	5.8	5.4	5.4	5.0

3Rのしくみづくり(市民・事業者の取り組み)

3)エコショップの普及

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.エコショップ認定の普及	0	店	0	0	0	0	9	50
2.資源物回収団体活動	50	団体	49	50	49	59	64	100

環境交流都市 日光クリーン大作戦

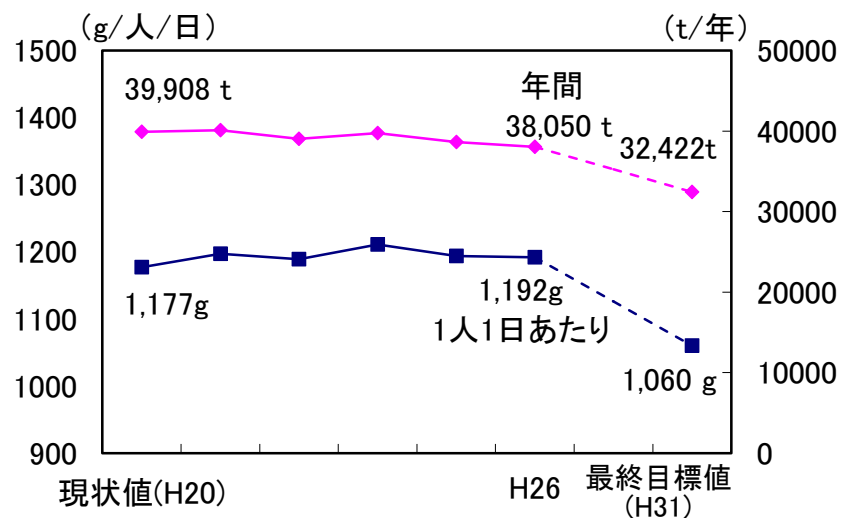
4)全市クリーン大作戦

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.参加団体数・参加者数	167	団体	242	301	263	254	333	250
	19,444	人	19,701	17,353	18,320	20,896	32,166	30,000

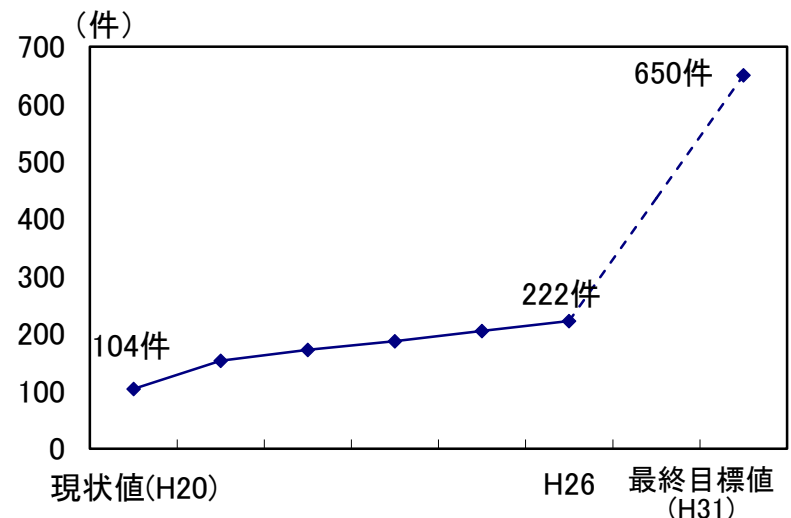
5)クリーンパートナー支援

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.クリーンパートナー団体数	29	団体	39	41	45	43	43	43

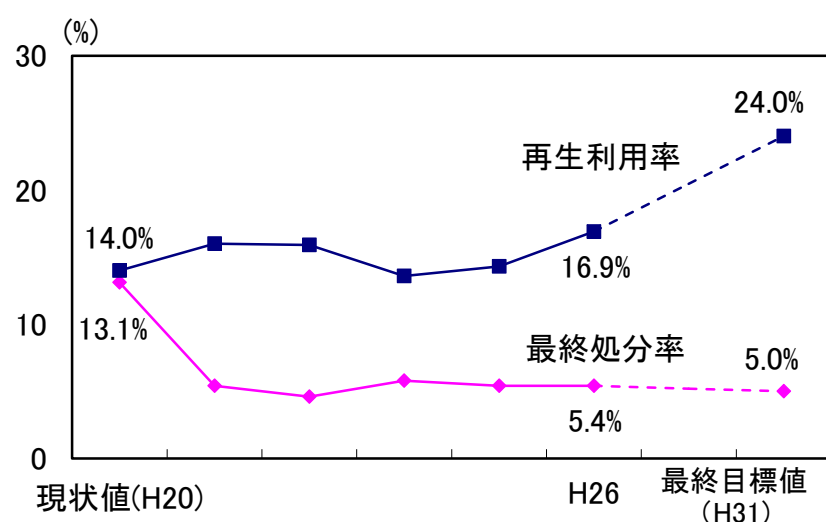
【指標名】 1-1. 1人1日あたりのごみの排出量 (g/人/日)
1-2. 年間ごみ排出量 (t/年)



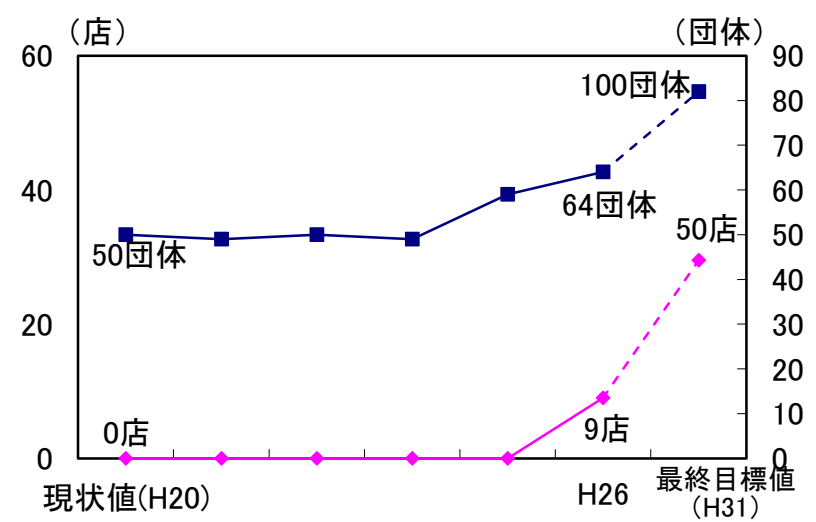
【指標名】 1-3. 生ごみ処理機器設置補助数



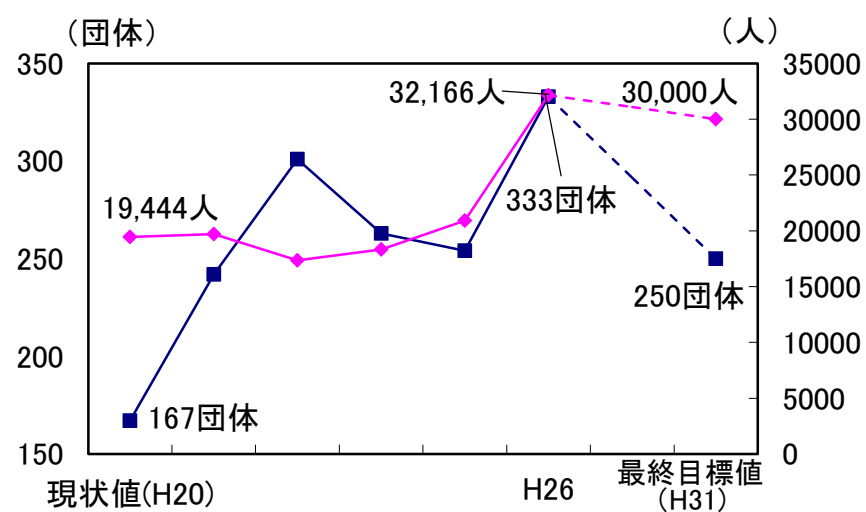
【指標名】 2-1. クリーンセンター等における再生利用率
2-2. クリーンセンター等における最終処分率



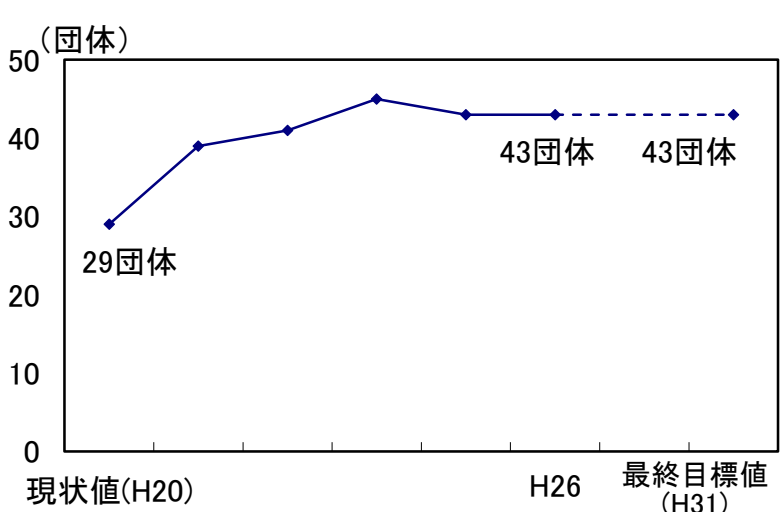
【指標名】 3-1. エコショップ認定の普及 (店)
3-2. 資源物回収団体活動 (団体)



【指標名】 4-1. 全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数



【指標名】 5-1. クリーンパートナー団体数



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

「4-1. 全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数」「5-1. クリーンパートナー団体数」の指標が良好です。一方、次の指標が低い数値となっています。

- ・「1-1. 1人1日あたりのごみの排出量」「1-2. 年間ごみ排出量」

平成26年度は前年度に比べてごみ排出量が減少しましたが、最終目標値とは大きな開きがあります。継続的に減らしていくために、家庭だけでなく、事業者からの事

業系ごみの減量についても、呼びかけ等を検討していきます。

・「1-3. 生ごみ処理機器設置補助数」

最終目標値とは大きな開きがありますが、毎年度着実に設置が進んでいます。環境機関紙「環境にっこう」などを利用し、引き続き周知に努めます。

・「2-1. クリーンセンター等における再生利用率」

前年度と比べて、再生利用率が増加しています。しかしながら、最終目標値とは大きな開きがあるため、ごみの減量とリサイクル量の増加を周知し、再生利用率の向上に努めます。

・「3-1. エコショップ認定の普及」

平成26年1月から申請の受付を開始し、平成26年度には市内の販売店、宿泊施設、企業の合計9店舗がエコショップの認定を受けました。引き続き広報誌とホームページを利用し制度の周知を行い、認定店の増加を図ります。

・「3-2. 資源物回収団体活動」

最終目標値とは大きな開きがありますが、前年度に比べ団体数が増加しました。引き続き、各自治会等へ制度について説明を行うなどにより、登録団体の増加に努めます。

○プロジェクト項目別実施状況

〔ファーストステップ〕

No	項目	進捗及び平成26年度実施内容				
3101	ごみ分別の徹底（紙類の4分別など）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→	→	→
		紙類分別を徹底することで、1人1日当たりのごみ量減少と再生利用率の向上が図れることについて、平成26年度においても、機関紙「環境にっこう」による周知を行いました。1人1日当たりのごみ量実績では前年と比較して減少する結果となりましたが、人口減による排出量の減少が影響していると考えられます。 引き続き広報紙などによる周知を行いながら、今後は、事業所等への周知についても検討を進めます。				
3102	生ごみの水切り徹底	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→	→	→
		ごみ排出量を減少させるには、生ごみの水切りは非常に有効であるため、前年度に引き続き「環境にっこう」を利用し、引き続き周知に努めます。				
3103	マイバッグ運動の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→	→	→
		日光市クリーンセンターを見学に来る市内小学生に配布し、マイバッグの利用を呼びかけました。				

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
3104	資源物回収団体の普及	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		資源物回収団体の普及のため、「環境にっこう」を利用し制度の周知を行いました。資源物回収実施団体の推移は前年から増加し 6 4 団体となり、資源回収量は、報奨金の上限を撤廃したことも影響し、回収量が増加しました。平成 3 1 年度目標の 1 0 0 団体を達成するには厳しい状況となっていますが、平成 2 6 年度からは、各自治会等へ資源物回収報奨金制度について説明を行い登録団体数の増加を図ります。				
3105	生ごみ処理機器設置費補助の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		生ごみ処理機器設置費補助の推進のため、「環境にっこう」を利用し制度の周知を行い、平成 2 6 年度の申請件数は前年同数 1 7 件となりました。 平成 2 7 年度も引き続き広報等による周知を実施し、生ごみ処理機等の利用による、ごみ排出量の削減を図ります。				
3106	新リサイクルセンターの再編整備	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		平成 2 6 年度から、リサイクルセンター内の旧施設解体跡地に整備した処理施設の運用を始め、資源物分別部門の民間業務委託を実施しました。今後も、効率的な維持管理を図ります。				
3107	エコショップ認定制度の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手	検討中 ●	→	実施 ●	→
		エコショップ認定制度の推進のため、「広報にっこう」「環境にっこう」を利用し制度の周知を行い、平成 2 6 年度の認定店は 9 店舗となりました。 引き続き広報誌とホームページを利用し制度の周知を行い、認定店の増加を図ります。				
3108	クリーンパートナー制度の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		平成 2 5 年度と比較すると団体の登録数に増減はありませんが、これは、活動を休止した団体と、新たに活動をスタートする団体の登録数が一緒だったためです。				
3109	環境美化委員活動の活性化	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		平成 2 6 年度は、全支部において支部会を開催し研修会を実施しました。また、ごみ減量化に向けての研修会も開催しました。				

No	項目	進捗及び平成 25 年度実施内容				
3110	全市クリーン大作戦の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				→
		平成 2 5 年度までは、6 月に不法投棄された可燃ごみと不燃ごみ、1 0 月に粗大ごみと処理困難ごみを対象にしていたが、平成 2 6 年度からは、実施時期を夏季と秋季に分け、どちらも不法投棄された可燃・不燃・粗大・処理困難ごみを対象として実施しました。また、処理費用について、今まで各自治体に一部負担を求めていたところを、無料としました。 前年と比較すると、参加人数は大幅に増加しました。今後も市民が参加しやすい方法など工夫をしながら引き続き実施します。				
3111	ごみのポイ捨て禁止の普及・啓発	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●				→
		全市クリーン大作戦やその他の集団清掃、廃棄物監視員のパトロールによるごみのポイ捨て防止等の環境意識の高揚を目指しているところです。また、ごみのポイ捨て防止のため、ごみ捨て禁止の看板貸し出しも行い、平成 2 6 年度は 1 0 枚の看板を自治会等へ貸し出し、ポイ捨て防止に努めました。今後も、クリーン大作戦等の集団清掃やごみ捨て禁止の看板の貸し出しを行うほか、廃棄物監視員によるパトロールと回収、広報紙を利用した啓発を行います。				

(4) 環境にっこの輪プロジェクト 環境学習・環境情報 ～豊かな環境交流があるまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

環境教育・環境学習を推進し、環境情報を発信することで、一人ひとりの環境意識を高め、環境保全活動の輪を広げる。

○指標

環境教育・環境学習の推進

1) 環境学習機会の充実

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.日光環境学習センターの整備			実施完了	完了				H22年度整備
2.市民対象の環境学習会開催	26	回数/年	36	41	36	30	46	50
3.『こどもエコクラブ』数	2	団体	2	2	3	3	3	5
4.環境学習センター来場者数	27,208	人	26,987	20,540	18,692	16,504	15,983	50,000

環境にっこの輪(情報交流)の推進

2) 市民による環境交流・環境学習事業の支援

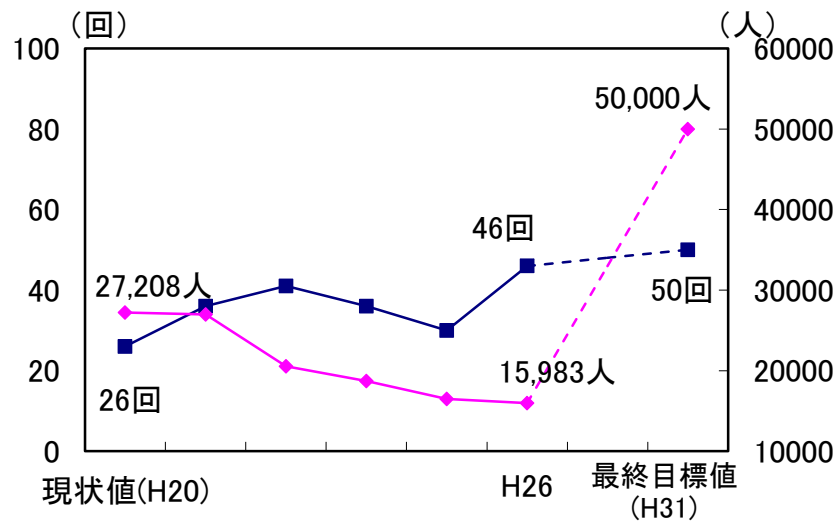
指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.(仮称)日光環境会議の設立				未着手	未着手	未着手	未着手	設立

環境情報の整備

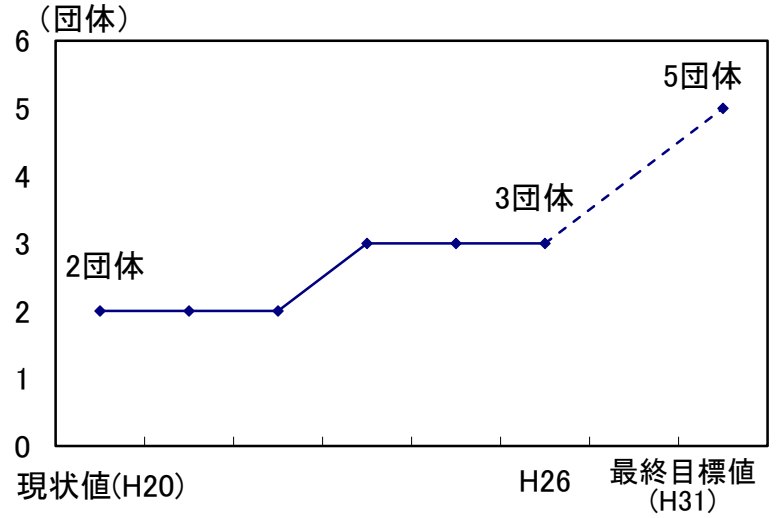
3) 「環境にっこう」等による情報提供

指標名	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1.環境機関紙「環境にっこう」の発行		発行数/年	4	4	4	4	4	4
2.事業者向け環境メール発信事業	17	社	19	19	20	21	21	120

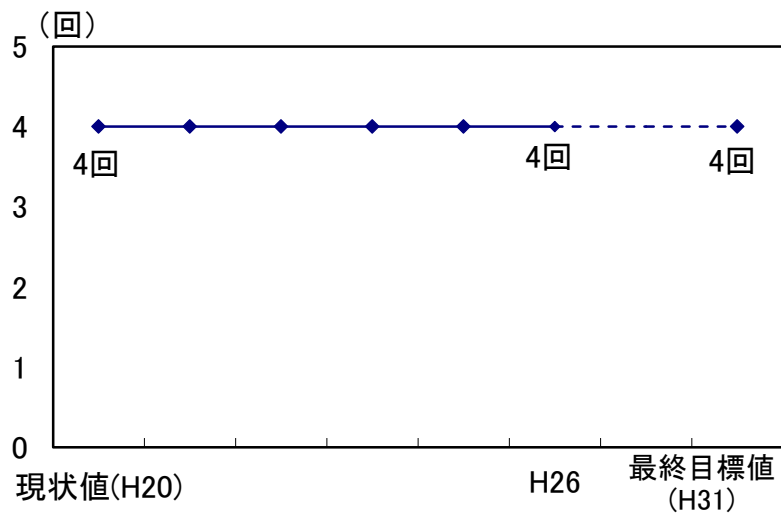
【指標名】 1-2. 市民対象の環境学習会開催（回）
1-4. 環境学習センター来場者数（人）



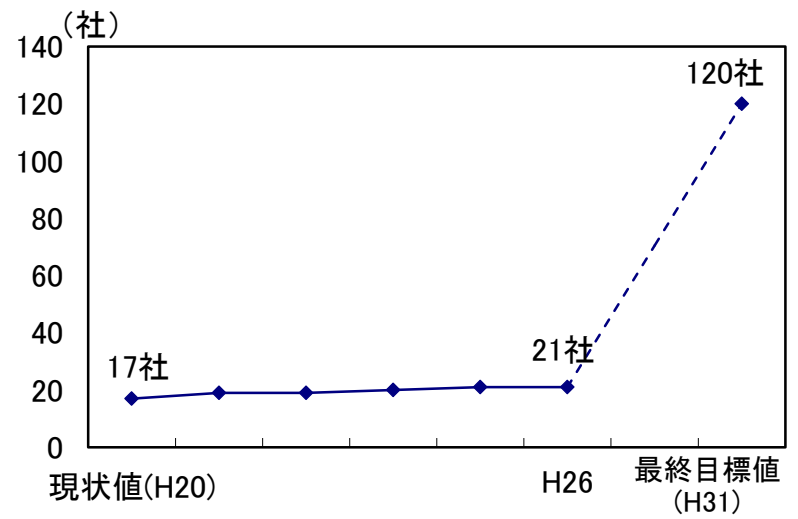
【指標名】 1-3. 『こどもエコクラブ』数



【指標名】 3-1. 環境機関紙『環境にっこう』の発行



【指標名】 3-2. 事業者向け環境メール発信事業



～～ 目標値に対する成果の状況 ～～

順調な指標と不調な指標が混在します。次の指標が低い数値となっています。

- ・「1-4. 環境学習センター来場者数」

来場者数は、日光・足尾の環境学習センターの合算で、9割以上を足尾環境学習センターが占めています。風評被害により修学旅行や社会見学での来場がいったん控えられ、それが継続していると考えられるため、今後もPRの強化に努めます。

- ・「3-2. 事業者向け環境メール発信事業」

登録事業者数がほぼ横ばいです。商工部門と連携して市内事業者に登録を呼びかけていきます。

○プロジェクト項目別実施状況
〔ファーストステップ〕

No	項目	実施状況及び平成 26 年度実施内容				
4101	学校間環境学習交流の検討	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●	→	実施 ●	→	→
		平成 2 6 年 1 1 月に今市工業高等学校と締結した学官連携協定に基づき、高校生が市内の小中学生に対して実施する環境教室（出前講座）のメニューを整備しました。				
4102	日光環境学習センターの整備	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施	完了			
4103	環境学習指導者の把握と活動支援	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手	実施 ●	→	→	→
		日光環境学習センターの解説を担当する自然解説員が環境学習指導者の中心的な存在となって、植物観察会や野鳥観察会等、市の環境学習事業と連携して活動していただいています。				
4104	『こどもエコクラブ』の普及	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		平成 2 6 年 3 月末現在で 3 団体 3 0 6 人が活動しています。市は地方事務局として、市内小中学校に普及啓発ポスターやリーフレットを配布、登録クラブに支援物品や関連資料を配布しています。				
4105	出前講座による環境学習の推進	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		そばまつりにて、E V ・ P H V の展示や奥日光の保全に関する取り組みを紹介するブースを設け、来場者に対し環境学習を実施しました。				
4106	環境保全標語の募集・活用	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		実施 ●	→	→	→	→
		市内中学校から標語を募集した結果、平成 2 6 年度は 3 6 点の応募がありました。その中から最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点を選出し、ポスターを作成、公共施設に掲示しました。また「環境にっこう」に掲載し、自然環境の保全及び環境美化の促進に係る啓発を図りました。				
4107	環境学習基本方針の策定	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
		未着手 ●	→	→	→	→
		法改正によって、「環境学習基本方針」に代わり「環境学習行動計画」の策定が努力義務となりました。 新たに提示された行動計画について、その策定目的や盛り込む内容、策定に必要な条件（協議会の設置等）を研究しながら、策定の是非を含め日光市としてどのように対応していくか検討します。				

3 今後の取り組み

平成26年度に「未着手」となっている2項目はいずれも「環境にっこの輪プロジェクト」の項目であり、取り組みについて検討を進めます。

また、環境問題は、市民一人ひとりの意識の醸成が課題解決につながることから、できるだけ直接丁寧呼びかけることを継続し、ご理解いただけるよう努めます。

以下、各プロジェクトについて、今後の強化ポイントをまとめました。

(1) 光の環プロジェクト

- ① 目標値の達成に向け、住宅用太陽光発電設備への設置補助制度を継続します。
- ② 公共施設を利用した再生可能エネルギーの活用を検討します。
- ③ 県の「EV・PHV タウン構想」と連携して、EV・PHV が走るまちづくりに積極的に取り組みます。市内の充電インフラ整備及びEV・PHV 普及を推進するため、急速・普通充電器及び家庭用充電コンセントの設置に対する補助制度を継続し、周知に努めます。
- ④ 再生可能エネルギーのうち特に小水力発電について、今市工業高等学校との学官連携により事業を実施するとともに、市民への普及啓発に努めます。

(2) 水の環プロジェクト

- ① 良好な水環境の保全を最優先課題とし、今後も公共用水域の水質が環境基準を維持できるよう、水質の監視を徹底します。
- ② 奥日光の源流地域の水質悪化は、下流域に大きな影響を与えるため、引き続き地元団体を支援し協力しながら、水質の浄化に取り組みます。
- ③ 小代地区の水田水路に生育する国内希少野生動植物種「シモツケコウホネ」について、水路等の環境や生育状況について専門家による調査を実施したうえで、地元と協力しながら環境保全に取り組みます。
- ④ 平成24年度に選定した「日光水のある風景百選」について、百選ブックレットや専用のホームページ等を活用し、広くPRに努めます。

(3) 資源の環プロジェクト

- ① 市の年間ごみ排出量は平成26年度に減少しました。今後も「環境にっこの輪」で生ごみの水きり・減量や、分別・資源化の呼びかけをするなど、ごみ減量を推進します。
- ② エコショップ認定制度は、平成26年度に要綱を策定し、参加店舗の募集を開始しました。認定店を増やしていくことで市民に身近な買い物の場面からエコ意識の浸透を図ります。
- ③ 住居周辺を清掃するクリーン大作戦は、普段特に環境美化を意識していない市民にとって、美化意識を持つきっかけとなる有効な事業です。住民同士の活動の輪も広がることから、引き続き全市をあげて重点的に実施します。

(4) 環境にっこの輪プロジェクト

- ① 教育委員会と連携し日光みらい科（市内中学校対象）においてラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」自然環境学習を実施するほか、修学旅行生に向けた環境学習パンフレットを作成するなど、各種環境学習事業を更に充実していきます。
- ② 事業者向け環境メール発信や、ライトダウンキャンペーンの参加など、事業者の環境活動への呼びかけについては、商工部門と連携しながら、随時、情報の発信及び活動への理解と協力を依頼していきます。